

平成 28 年度の学校評価

1 建学の精神

不言実行 あてになる人間

「入れる学校」から「入りたい学校」へ

- (1) 普通科と工業科を併せ持つ、多様な選択肢のある教育
- (2) 一貫コースを中心とした高大連携教育
- (3) 建学の精神「不言実行 あてになる人間」の具現化
- (4) 豊かな自然、恵まれた教育環境の中での自己実現
- (5) 学習に偏ることなく、特別活動や部活動を通しての「徳・体」の錬成
- (6) 校則を守り、公共心や公正さを育む教育

	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
渉外部	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 募集定員を確保する。</li> <li>(2) 女子生徒数増をめざす。</li> <li>(3) 中部大学との「高大一貫教育」の発信</li> <li>(4) 普通科、機械電気システム科の各コースの特徴をさらに浸透させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 中学校訪問において、中部大学と連携して「高大一貫教育」をアピールする。</li> <li>(2) 学校見学会を充実させ、中学生の満足度を上げる企画を実施する。</li> <li>(3) 特待生、スポーツ奨学生を含めた成績優秀者の募集に努めるとともに、女子生徒数を増やす方策を考える。</li> <li>(4) 部活動の練習会をはじめ、元気で魅力ある学校をPRする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 地元重点地区を中心に大学の協力も得て、きめ細やかな渉外活動の結果、日進・春日井地区の志願者が増加した。</li> <li>(2) 見学会実行委員や学校紹介、制服試着など女子を意識した企画を試み、女子の志願者が増加した。</li> <li>(3) 中学を対象に、中部大学見学会や、塾説明会等で中部大学との高大連携を発信した。</li> <li>(4) 学校紹介DVD等を作成し、学校見学会等で紹介するとともに、部練習会等も実施した。</li> </ul>
総務部	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 平成29年度修学旅行の実施に向けての取り組み</li> <li>(2) 新入生オリエンテーションの検討</li> <li>(3) PTA総会・中部大学見学会・地区懇談会の充実</li> <li>(4) 新しい形での避難訓練の検討</li> <li>(5) 情報メール配信の内容の検討と、被登録者への対応</li> <li>(6) 朝読書で自分が準備した本を読む生徒を増やす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 平成29年度沖縄修学旅行実施に向けて、関係部署で、コースを検討し、具体化する。</li> <li>(2) 平成29年度以降の宿泊も含めて検討する。</li> <li>(3) 行事毎にアンケートを実施し次年度に生かしたい。行事は担当が出席しやすい期日を設定する。</li> <li>(4) 避難時間の重要性を意識させ、10分以内の集合完了を目指す。</li> <li>(5) 情報メール配信の内容を調整するとともに、未登録者に対する、情報配信の仕方を検討する。</li> <li>(6) 自分で本を準備した生徒の調査と、「自分が薦める本」の紹介等を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 平成29年度以降の沖縄修学旅行の取扱業者を決定し、具体的コースの検討にかかる。</li> <li>(2) 新入生オリエンテーションは、2日目の中部大学見学を実施し、中部大学の理解に効果があった。来年度から、中部大学で実施する。</li> <li>(3) PTA総会后、保護者懇談を実施したが、出席者の増加には結びつかなかった。中部大学見学会は、希望学科毎に見学コースを決定したため好評であった。</li> <li>(4) 今年度は火災避難訓練でピロティニーに避難したが、避難コースの再検討を感じた。</li> <li>(5) 情報メール配信の未登録者が数名になった。発信内容の精選をしている。</li> <li>(6) 朝読書は、各クラス間の取組にばらつきがあったため、マニュアルを作成し、意識の共通化を図った。</li> </ul>
教務部	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 新校務システムへのスムーズな移行と効率的な利用の定着</li> <li>(2) 「分かる授業」「履修の定着」「家庭学習の励行」への取り組みの推進</li> <li>(3) ICT教育対応に向けての準備検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 夏季休業中を利用して、職員に新システム理解を徹底する。</li> <li>(2) 教育課程・学年運営・教育相談各委員会の情報交換の場を積極的に活用し、生徒理解の場を設ける。</li> <li>(3) 電子黒板利用者との意見交換会や、外部のICT教育に関する研修会への参加、報告会を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 新校務システムへの移行のための説明会を開いたが、不十分であり、継続研修が必要である。</li> <li>(2) 学年運営、教育相談等で、生徒理解の共有化を図り、指導の敏速化に努めた。</li> <li>(3) 電子黒板利用者等の授業の見学を奨励し、また各種講習会に参加した。今後は、新しい情報の共有化を図りたい。</li> </ul>
生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活規律の向上と良好な学習環境の確保に努める。</li> <li>(1) 身だしなみ指導の徹底と生活規律の向上に努める。</li> <li>(2) 登下校時のマナーの向上と交通安全に努める。</li> <li>(3) SNS利用に関するモラル指導に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 問題行動発生時における初期対応の迅速化を図るため、関係者との連携を強化する。</li> <li>(2) 問題行動を未然に防ぐ施策を検討する。</li> <li>(3) 街頭指導並びに啓発活動により、交通事故防止、交通マナー向上に努める。</li> <li>(4) いじめによる問題行動を防ぐため、SNS利用指導とともに細やかな指導姿勢で臨む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 問題生徒に対する情報を初期段階で得ることで、注意喚起を行い特別指導件数が減少した。</li> <li>(2) 身だしなみ強化旬間を利用し全教員で授業開始時等を実施しているが、教員間のばらつきを無くすことが課題である。</li> <li>(3) 登下校時の巡回指導、考査期間中の下校時の巡回指導、通学バス利用生徒への指導、自転車マナーの指導を行ってきた。生徒のマナーの苦情に対しては敏速に対応した。</li> <li>(4) SNS利用モラルの講習は行っているが、利用上のトラブルが増加している。分かった内容については初期段階で対応している。携帯電話校内持込に対する指導のルールを作成した。</li> </ul>
特活部	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 全員参加型の生徒会行事を継承し、実施内容の質と魅力を高めるとともに、地域へのアピールを行う。</li> <li>(2) 部活動を物心両面で支援する。</li> <li>(3) 教育相談を充実させ学年・分掌との連携を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 文化祭の計画案を早期に提示し、各クラスの企画案の調整を図るとともに、地域への発信を図る。</li> <li>(2) 広報部と協力し、生徒の活躍を発信する広報活動を活発化させる。</li> <li>(3) 学校カウンセラーによる教職員に対する現職研修を定期的に行い、教員の生徒理解の手法の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 地域への発信のために、文化祭の案内を三本木地区に配ったが、配布時期が遅れ、来校者増加にはあまりつながらなかった。</li> <li>(2) 広報部員がいなかったために、生徒会新聞の発行には至らなかった。</li> <li>(3) 学年・担任との連携を図り、できるだけ速やかに教育相談で対応した。また、カウンセラー席を設け、教員が相談しやすくとともに、2回教育相談懇談会を実施し、教員の資質向</li> </ul>

			上に努めた。
研修部	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 研修会の充実</li> <li>(2) 現職教育の模索</li> <li>(3) 学校生活における意識調査の実施</li> <li>(4) 「学校評価に関する調査」の実施</li> <li>(5) ESD活動の展開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 初任者研修会(5回)、初任者研究授業(2回)を実施。</li> <li>(2) ESDに関する講演会を実施する。ESD以外の教員対象の講演会も検討する。</li> <li>(3) 学校生活意識調査・学校評価(保護者対象)の実施と分析。</li> <li>(4) ESD活動へより積極的に参加できる協力体制を構築する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 初任者の研究授業を教科会の時間に設定し、同じ教科の教員の授業参観者を多くすることができた。</li> <li>(2) 教員には副学長の講話。1年生生徒に中部大准教授からESD講演会を実施した。</li> <li>(3) 学校生活意識調査・学校評価(保護者対象)を実施し、結果を受け止め教員間で共通認識を図った。</li> <li>(4) 各方面のESD行事に参加発表等を行った。また、初めてESD研究活動大賞を設定し、活動報告会を行った。</li> </ul>
進路指導部	<p>自分の興味や適性を早期に自覚させ、主体的に自らの将来の目標を設定させることで、適切な進路を確保する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 中部大学との連携をさらに強化し、生徒の中部大学への興味・関心が強まるよう機会・環境を整える。</li> <li>(2) 個人の希望・適性にあった企業を選択できるような指導を心がけ、入社後も簡単にやめない指導を強化する。</li> <li>(3) 普通科と連携し、学習環境の整備、具体的指導の充実にも力を入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 中部大学へは、116名が合格した。推薦で進路決定後の生徒の、学習意識の向上を図っていききたい。</li> <li>(2) 事前指導充実の結果、就職の一次合格率が85%と上がり、二次までに全員合格することができた。有効求人倍率が10倍となり、今後も多くの企業と信頼関係を持ち続けていきたい。</li> <li>(3) 普通科と共に、機械電気システム科の進学指導の充実にも力を入れていきたい。</li> </ul>
普通科	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 3か年の学習計画に基づき学習習慣を確立し、学習先頭集団を育て、国公立大学の合格者を増加させる。</li> <li>(2) 中部大学への進学希望者を増やし、大学を4年間で卒業できる学力をつける。</li> <li>(3) コース毎に進路目標を早期に設定し、豊かな人間性を養いつつ、きめ細やかな進路指導に繋げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 英語力強化を普通科共通の目標とし、英語検定の合格を学習意欲の向上に繋げる指導を継続する。併せて、コース毎に必要な学力の確実な定着を図る。</li> <li>(2) 自習室利用の増加や家庭学習の促進などの、学習支援及び学習意欲向上の方策を続ける。</li> <li>(3) 各コースの特徴を生かすために進路研究会を継続し、中部大学の理解及び連携に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 英語力強化の指導は確立しつつあるが、生徒の意欲を喚起し結果を出す指導法の研究が必要である。また、コース毎の目標に沿った進路指導の充実が課題である。</li> <li>(2) 自習室の利用は増加傾向にあるが、考査だけでなく、大学進学につながる常時活用する生徒の増加を図りたい。</li> <li>(3) 進路研究会の実施により、進路指導に関する情報の共有化や中部大学の理解を深めることができた。今後は、進路の指導法の共有化を図っていききたい。</li> </ul>
機械電気システム科	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 資格・検定試験の取組と生徒の能力の向上を図る。</li> <li>(2) 対外的な活動の拡充と実績の向上を図る。</li> <li>(3) 機械電気システム科としての特徴づくりと立案を図る。</li> <li>(4) 専門課程を学ぶ意義を理解かせるとともに、進路意識の高揚を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) ジュニアマイスター顕彰取得率の増加や、技能士など社会的評価の高い試験の合格実績の向上を図る。</li> <li>(2) 各種競技会等への参加に向けての検討と実施に向けた準備を図る。</li> <li>(3) SPHの認定を目指した指導体制の見直しと確立を図る。</li> <li>(4) 生徒・保護者等を取り込んだ広報活動の立案と取組を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) ジュニアマイスター顕彰取得数は例年とほぼ同数であった。取得のための取り組みを行ってきたが、基礎学力向上の必要を感じた。</li> <li>(2) レゴ、マイコンラリー等へ参加した、さらにロケット等新しい取り組みをしたい。</li> <li>(3) SPHの認定を目指し、課題研究等を中心に新しい取り組みを行い、各種発表会にも積極的に参加した。</li> <li>(4) 中部大学・日進市でのイベントに参加し、本校の取り組みの紹介等を行うと共に、教員も外部の研修に参加し、資質向上に努めた。</li> </ul>
一年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 高校生としての自覚を持たせ、高校生活への円滑な導入を促す。</li> <li>(2) 学習の基礎内容の理解と、各自が立てた実現可能な目標の達成に向けて努力させる。</li> <li>(3) 課外活動に積極的に取り組ませ、学校生活への満足度を上げる。</li> <li>(4) 進路を意識した自己分析をさせ、進路実現にむけた継続的な取り組みをさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) HRや集会を通じて、マナーの意識を高めるとともに自己管理能力の向上を図る。</li> <li>(2) 普通科は英検、機械電気システム科は資格取得の目標を立てさせ、積極的に取り組ませる。</li> <li>(3) 学校行事、生徒会活動、部活動、ボランティア活動、ESD活動などの活動に積極的に取り組むことで、学校生活での充実感や満足度を高める。</li> <li>(4) 自己理解を促進させ、進路目標を設定することで、積極的に自己研鑽を高める取り組みをさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 学年集会やHRなど様々な機会を通して、学校における集団生活の定着を図った。</li> <li>(2) 各自で目標を立てる取組の結果、普通科英語検定合格者33名と例年並み、システム科県技術顕彰受賞者が20名と成果が出た。</li> <li>(3) 球技大会・体育祭等の生徒会主催の行事に積極的に参加するだけでなく、福祉やボランティア活動に多くの生徒が参加できた。また地域や校外のイベントで部活動・クラス等で参加し活躍した。</li> <li>(4) HR等で、学習時間調査等を利用し自己分析をさせ、志望校の難易度や友人関係だけで志望校や就職先を選択しないように指導した。</li> </ul>
一二年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 学校生活で中心的役割が果たせるよう、生徒の意識向上と行動力を高める。</li> <li>(2) 進路目標を早期に持たせ基礎学力を高める。</li> <li>(3) 各コース、各科に沿ったきめ細かい指導を行い、積極的な資格取得を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 全校集会、学年集会、HRを通して、生活指導を繰り返し行う。</li> <li>(2) 資格取得の動機付けと進路目標を持たせることで自ら学ぶ姿勢の定着と意欲の向上につながるよう指導する。</li> <li>(3) 学年団、教科担当、家庭との連絡を密に行い、生徒の変化を見逃さない指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 学年全体で、生活指導の取組ができ、指導件数を減らすことができた。また文化祭をはじめとする学校行事にも積極的に参加できる生徒が増えた。</li> <li>(2) 小テストなどに意欲的に取り組む生徒が増加した。今後は、学力が定着できる学習方法の指導に力を入れたい。</li> <li>(3) 進路決定を早く行い、進路に結びつけた学習や、提出物の必要性、必要教科の強化を図る指導を実施した。</li> </ul>

<p>三年生</p>	<p>(1) 最上級生としての自覚や社会人を意識した行動がとれるようにする。  (2) 主体的に進路決定をさせ、それに向けた努力をさせる。  (3) コース、系に沿ったきめ細かな指導と、情報の共有化を図る。</p>	<p>(1) 全校集会、学年集会、HRを通して、講話の中で生活指導を繰り返し行い自覚させる。  (2) 4月当初より、中部大学をはじめとした進学に関する情報を提供し、自主的な取り組みを促す。  (3) 学年団、教科担当、家庭との連絡を密に行い、生徒の変化を見逃さない指導を行う。</p>	<p>(1) 全体指導と個別指導を組み合わせ、規律や校則の指導を行った。精神面のケアが必要な生徒には、特に家庭との連絡を密に行った。  (2) 4月当初に集中して進路指導を行い、その後適宜進路情報を与え、主体的な進路決定を促した。  (3) 中部大学希望で、女子の看護・幼児教育の志望者が特に多かった。進路情報は、学年会・担任会の回数を増やすことで対応した。</p>
<p>総合評価</p>	<p>建学の精神「不言実行 あてになる人間」の教育理念のもと、「入れる学校」から「入りたい学校」を目指し日々教育実践を行っている。</p> <p>学習指導では、「わかる授業」を目指し、ICT活用授業を奨励し、新たに多くの授業で取り入れることができた。さらに教員間の授業参観や、外部研修の報告会等、教員研修を行い教員の資質向上を図っていききたい。また、英語検定合格を目指し、英語力強化に取り組んでいるが、機械電気システム科をはじめ、基礎学力向上のための新しい取組を考えている。</p> <p>生徒指導では、年度当初に、交通安全講話・自転車点検・携帯電話やインターネットに関する講習会等を行い、事故や事件・トラブルに巻き込まれない指導を行い、意識の向上を図っているが、交通マナー違反等の苦情や、生徒間のSNSによるトラブル等もあるが、分かった時点で担任・学年・生徒指導部の連携で敏速に対応している。携帯電話等の指導について新たに教員間の意志統一を行った。教育相談では、不登校傾向にある生徒に関する情報を学年中心に共有し、スクールカウンセラーに相談を行う等して速やかに対応している。また、教員に対しては、聴き方・話し方・対応の仕方・事例研究等の現職研修を行った。</p> <p>進路指導では、就職では、有効求人倍率が10倍となり、一次合格者が85%で、二次までに全員が合格できた。今後とも多くの企業との信頼関係を継続していききたい。進学指導では、前後期の補習や長期休業中の補習をはじめ、自習室や特進クラスの自習時間の確保等を行い、進学に対する学習と、意欲の向上を図った。本年度は、特進コース以外からも国公立の合格者が出た。中部大学については、高大連携の取組により、模擬授業や、入学センターと3年担任団の懇談により、中部大学の魅力を担任が理解し、進路指導に生かすことができた。</p> <p>機械電気システム科では、課題研究の充実と、SPHの認定を目指し、さまざまな取組をした。中部大学での発表や日進市の行事に参加し、本校の課題研究や防災に関する取り組みの紹介や発表をした。本年度のジュニアマイスター顕彰取得者は、ゴールドが8名、シルバーが20名、特別表彰が1名であった。</p> <p>部活動においては、少林寺拳法部が「全国高校総体」で、男子団体演武の部で6位に入賞。「2016年少林寺拳法全国大会 in おおいた」で、一般女子二段の部で2位となり、世界大会出場権獲得した。男子バスケットボール部は、「全国高校総体」でベスト16進出、「全国高校選抜優勝大会」では2回戦進出であるが、いずれも優勝チームの福岡第一高校に僅差で破れる大健闘であった。ゴルフ部でも「平成28年度全国高等学校ゴルフ選手権大会」、「全日本サンスポ女子アマゴルフ選手権」をはじめとする全国大会に女子個人で出場し健闘している。また、男子ソフトボール部が「中日本総合男子ソフトボール選手権」で2年連続優勝をした。さらに、県大会では、女子バスケットボール部が、県高校総体、県高校選手権で4位、県高新人でサッカー部がベスト8進出。野球部、男女陸上部、女子ソフトボール部、吹奏楽部が県大会に出場している。</p> <p>ESD活動については、昨年度から各教科の授業においてESDに関する内容を全教科シラバスに記載し、授業で取り扱うこととした。また、ESD研究活動大賞を設定し募集をしたところ、9グループの参加があり発表会を実施した。ESD部・特進クラスを中心に、「愛知県ユネスコスクール交流会」や「にしんわいわいフェスティバル」等に参加し、発表・交流を意欲的に行った。</p>		